
女川町及びアスヘノキボウ、 地域における研修事例の紹介

2020年3月9日





特定非営利活動法人アスヘノキボウ
 代表理事 小松洋介
 設立: 2013年4月
 スタッフ: 4名 + インターン1名
 事業: データ事業、予防医療事業
 活動人口創出事業、
 研修事業、人材紹介業
 フューチャーセンター事業
 起業支援事業者数: 23
 (内: 創業本気プログラム13)
 事務所: 女川(本部)、東京(支部)





「特定非営利活動法人 アスヘノキボウ」は、東日本大震災を機に生まれた NPO 法人です。私たちは、新しく変わろうとしている日本中の地域にて、まちのビジョンや計画を地元の方と一緒に描き、作成し、「ひとづくり・組織づくり」と「産業活性化」を実現させることで地域の変革に寄与することを目的として活動をしています。

アスヘノキボウのあゆみ



代表挨拶 / Message



小松 洋介
KOMATSU YOSUKE

想いがあった 被災地は、新人時代に飛び込みで鍛えられた場所だから黄川田さん FRK 室長、その下に補佐として 付く商工会との 一つの町で根をおろして、まちづくりを徹底的にやったほうがいい、そして他の地域、世界へ町全体を見渡して必要なものを見出すゼナリストになれ 民間でできることをやる
設立趣旨 災害危機があった町の復興支援 先導する町の人々の支援、サポートその時町で必要なことをやって いった、徐々に外からも声がかかり対応
女川は「課題先進地」日本の社会課題、先進的な取り組みが必要地方ならではの社会課題への取り組み 女川では 先進的な事例を作ることができる社会課題解決に対して先進的な取り組みをする、その挑戦こそが新しい復興のかたち自ら事業創出しなければいけない地方特有の可能性事業をより良くすることで、日本の社会課題の解決になる Venture for Japan についてアスヘノキボウのスタンスとしては、一貫している

Profile リクルート東北地区の最年少●●マネジャー
東日本大震災の復興支援に携わるため同社を退職し、女川へ。2014 年 AERA 「日本を突破する100人」。
2015 年日本青年会議所「人間力大賞 経済産業大臣賞」。2017 年復興庁「新しい東北」復興顕彰・フォー
ブスジャパン「ローカルイノベーター88人」・日本財団ソーシャルイノベーター

スタッフ / Staff



後藤 大輝
GOTO TAIKI

アスヘノキボウ総務・財務
活動人口創出事業担当・HLAB 現地パートナー
経歴：明治大学国際日本学部
→2016.10 アスヘノキボウ
出身：愛知県
趣味：音楽鑑賞・狩猟
▶まちで何かチャレンジしてみたい、学生 新卒で地方・NPO で働くことに興味があり ありましたらお気軽に声掛けください。



大曾根 香織
OSONE KAORI

女川健康プロジェクト マネジメント担当
経歴：慶応義塾大学文学部英米文学
→日本国際協力センター JICE →米国 大学院留学→2017.9 アスヘノキボウ
出身：神奈川県
趣味：旅行・美術館巡り
▶健康 PJ のことや病院に行くほどで はないけど健康のことで気になる事 があったら気軽に聞いてください。



岩部 莉奈
RINA IWABE

アスヘノキボウ広報担当
活動人口創出事業サポート
経歴：北九州市立大学地域創生学群
→2018.3 アスヘノキボウ
出身：高知県
趣味：カメラ・YouTube 鑑賞
▶飲み友達をつくりたい方は、お気軽 にお声掛けください!!

理事 / Bord members

梶屋 拓朗
TAKURO KAJIYA

山口 英朗
HIDEAKI YAMAGUCHI

石川 孔明
YOSHIKI ISHIKAWA

女川町の概要

宮城県の東、牡鹿半島基部に位置し、南三陸金華山国定公園地域に指定されている。
北上山地と太平洋が交わり、リアス式海岸は天然の良港を形成し、暖流・寒流の豊富な魚種が数多く水揚げされている。リアス式海岸を活かした 養殖産業。世界三大漁場を活かした 近海漁業。水産業の町として発展してきた。6,000漁港中、13位の漁獲量を誇る（人口1人あたり全国1位、水産業に関わる人口の割合が高い）



現在の人口：6,424名（R1.11.30時点）

震災後の女川町、民間主導の復興

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災し、827名の方が死亡し(当時10,014人)町の約7割が流出するという被災沿岸部では最も高い被災率の地域となったが、地域の民間企業が立ち上がり、震災から約1ヶ月後に、女川町復興連絡協議会(FRK)を設立。FRKの発起人である女川町の民間リーダーの1人である株式会社 高政 会長(当時60歳)が、協議会発足時に「まちづくりに還暦以上は口を出すな」というメッセージを発信し、30代~40代の地域の若手にまちづくりを託し、その世代がまちづくりの中心を担っている。



復興連絡協議会は、**どんな町を創りたいのか・目指すのかというビジョン**を決めることを役割とし、そのビジョンをもとに、民間視点(経済や暮らしの観点)の約80ページ以上にもわたる復興計画書を行政に提出。行政と民間の復興計画書を複合し、より持続的な地域にしていくためのまちづくりを公民連携で進めてきた。**消費目的ではない動線づくり意識し、動線を駅前商店街に集約させたコンパクトシティ。**

ユニバーサルタウン 具体案1

- ①住民の高台からの移動、各結節点になるパークアンドライド、JRの駅から市街地等への移動について、**バリアフリー**と連結とする。
- ②交通路(専用路兼避難路)の確保と交通手段として、**接続循環バスとLRTの運行。**
- ③バスはノンステップの小型エコバスを使用し、子供たちが乗って楽しいデザインの観光&福祉型のデザインとする。

ユニバーサルタウン 具体案2

- ⑧岸壁沿いに**くは**散策路を創設し、河川と連結させる。
- ⑨岸壁沿いのウッドデッキは小乗方面(水産試験場)までへななぎポケットビーチ&ミニ海路と連結させる。
- ⑩街中から森林散策路まで町全体を歩いてつなげる道を
- ⑪中心街区(モール内)は車が

<女川町中心街区 イメージMAP>



⑦店舗数減少を街路、河等に花木を植を設ける。

⑬緊急時、wi-fiのポール難路を表示する標識に

⑮モール周辺(低地)か高台避難所(展望台)へ難路にノンステップエスターを配備する。

Map labels include: 飲食街, アーケードモール, スポーツ複合施設, 商業施設, 温泉施設, 前浜市場(せがれ市場), 観光センター, マリーナ, アートカフェ, 宿泊施設, 展示(バル街), マリンバスステーション, アーケードモール, アートギャラリー, 自衛病院, ウッドデッキ, 公園, シム, フットサル, テニス, バイコゴルフ, アスレ.



あたらしいスタートが世界一生まれる町へ。

START!
ONAGAWA

2015年に仮設から本設の商店街へ

2015年12月にまちびらきをし、駅前テナント型商店街 シーパルピア女川がスタート。

2018年度には、東日本大震災後に女川町のにぎわい拠点として整備された「女川駅前レンガみち周辺地区」が、平成30年度の都市景観大賞「都市空間部門」で最高賞の国土交通大臣賞に選ばれた。駅と海を結んだ空間づくりやデザインへのこだわりなどが高く評価され、審査委員の全員一致で決定。他にも、アジア景観大賞(2018)、グッドデザイン賞(2018)などを受賞。



あたらしいスタートが世界一生まれる町へ。



START!
ONAGAWA

学びの場としての女川

ハーバード・ビジネス・スクールをはじめ、町外の企業・団体が、“リーダーシップ”、“組織変革”、“志の育成”、“自分-会社-社会の繋がり”、“持続可能な地域の地域の在り方”など様々なテーマを学びに女川を訪れるケースが増えています。



「ト」が世界一生まれる町へ。
ART!
NGAWA

企業 系列	対象層	テーマ	研修タイプ
人材派遣、人材メディア、販促支援	経営層(役員)	人口減少化社会におけるこれからの会社経営のあり方を考える。 志(死生観)を深める。	啓発型
自動車メーカー	エンジニア (次期幹部候補)	「自分」―「会社」―「社会」を軸に、自分の創りたい未来について考える。自分の仕事が社会にどう還元されているのか、理解を深める。	啓発型
システムインテグレーター	課長級 (次期幹部候補)	社会課題を体感し、自分と会社がどうありたいのかを考える。自分が解決したいと思う課題を深め、事業アイデアを練り、女川町関係者へ提案する。	事業開発型
システムインテグレーター	新人社員	「自分」―「会社」―「社会」を軸に、自分の創りたい未来について考える。 志を深める。	啓発型
コンサルティング	幹部候補	社会課題の社会課題への理解を深め、企業/自治体/NPOの協働のあり方を考える。	啓発型
製薬・バイオテクノロジー	課長級 (次期幹部候補)	社会課題を体感し、自分と会社がどうありたいのかを考える。	啓発型
医療機器メーカー	支店長	女川の復興を通じて、リーダーシップとは何かを考える。	啓発型

その他8社(合計15社実施)

1日目のテーマ

地域リーダーに学ぶ。
地域の社会背景や地域の根幹にある
ビジョンやありたい姿を捉える。



チェックイン

オープニング

民間発進の
公民連携のまちづくり

女川まち歩き

女川町長
講演

1日目
ふりかえり

懇親会

2日目のテーマ

社会課題やそれらに実際に取り組んでいるリーダー、
地域×企業・団体の連携事例に学ぶ。



朝食

ロート製薬
阿部氏との対話

NPOカタリバ
多田氏との対話

2日間
ふりかえり

終了

参考：啓発型フィールドワークプログラム案 女川1日目

スタート	エンド	コンテンツ	内容	目的
13:00	13:30	チェックイン	<ul style="list-style-type: none"> ・女川での研修に期待することを共有。 ・自分の気持ちの状態などの共有。 	参加者の目的意識の設定。 マインドセットを整える。
13:30	13:50	オープニング	<ul style="list-style-type: none"> ・女川のまちづくりの概要。 ・この2日間の流れと意識して聞いてほしい点について。 	参加者の目的意識の設定。
14:00	15:20	民間発進の 公民連携のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・震災前後の女川町について。 ・民間発進の公民連携のまちづくり。 ・青山さんの死生観、志について。 	地域の社会的な背景を知る。 地域リーダーの考え方を知り、 何がこの地域のコアなのかを知る。「自分」と「会社」と「社会」のつながりについて考える。
15:30	16:50	女川まち歩き	<ul style="list-style-type: none"> ・女川のまちづくりのガイド。 ・地域課題や今後の女川のまちの展望について。 	地域の産業や医療福祉、地域交通などの地域の現状を肌で体感し、地域の環境分析と洞察を深める。
17:00	18:00	女川町長 講演	<ul style="list-style-type: none"> ・復興8年9ヶ月の歩み。「復興」とは何か。人口減少下における公民連携での女川町の地域経営のあり方。 ・今後10年の町のビジョンや計画について。(3つの成長のサイクル) 	地域リーダーの考えているまちのビジョンやあり方を知る。 リーダーが持つべき視座や視点、 について考える。
18:00	18:40	1日目 ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・1日間の学びと感じたことの整理。 * 終了後、ホテル エルファロチェックイン。 	
19:00	21:00	懇親会	<ul style="list-style-type: none"> ・Camass または ガル屋Beer で懇親会。 	

参考：啓発型フィールドワークプログラム案 女川2日目

スタート	エンド	コンテンツ	内容	目的
08:00	09:00	朝食	・ホテル エルファロにて朝食。	
09:00	10:00	ロート製薬 阿部氏との対話	<ul style="list-style-type: none"> ・女川の地域医療の課題と現状。 ・女川健康プロジェクトの概要。 ・地域×企業の連携について。 ・今後の展開。 	<p>地域の社会課題に対する理解を深める。</p> <p>地域×企業の連携アプローチを知る。</p>
10:00	11:00	NPOカタリバ 多田氏との対話	<ul style="list-style-type: none"> ・女川の教育と課題と現状。 ・NPOカタリバの事業について。 ・今後の展開。 	<p>地域の社会課題に対する理解を深める。</p>
11:00	12:00	2日間 ふりかえり		
12:00		終了		



ポイント①女川駅 展望台

(開始0:03分後到着)

女川駅舎展望台に上がり、コンパクトシティのまちづくりを説明。その際に以下についても加えてを説明。

●住民課題

まちづくりのコンセプトでもあるコンパクトシティで、水産業エリア、(0レベル:市場など)商業エリア(1レベル:駅前商店街)、住宅エリア(2レベル:高台住宅エリア)の3つのレイヤーに分かれている。

その行き来は高齢者にとっては、高低差があり、移動しづらく、町の中心部までの移動がきついという声があがっている。町民バスが使いづらさから、あまりなされていないことや、実際の移動をどうしているかなどの参考情報も提供。

ポイント②女川地域医療センター

(開始0:25分後到着)

震災後直後の被災状況からまちが今どのように復興してきたのかを見る現場を体験する場所。津波到達ラインもあり。第2商業エリアの見学。

ポイント③女川交番前

(開始0:40分後到着)

現在建設中の沿岸の観光交流エリアを通過するため、今後のまちづくりについて観光面でどのような動きが起こっていくのか。現状と課題についてご説明。

ポイント④女川町まちなか交流館

(開始0:50分後到着)

女川町のコンパクトシティの要でもある公民館的な役割を担っている施設。女川町の全体を見れる模型がある他、町の年表もあるので、こちらで5分ほど自由滞在。

ポイント⑤現地起業家の店舗周り

(開始0:60分後到着)

地域でどんな起業家が生まれているのか、そのお店周り。

* 起業家と調整して、事業や創業経緯などを共有して頂く機会を設けることも可能です。

参考：女川まち歩き ルート案

以下のルートでの案内が基本になります。

ポイント①女川駅 展望台

ポイント②女川地域医療センター

ポイント③女川交番前

ポイント④女川町まちなか交流館

ポイント⑤現地起業家の店舗周り



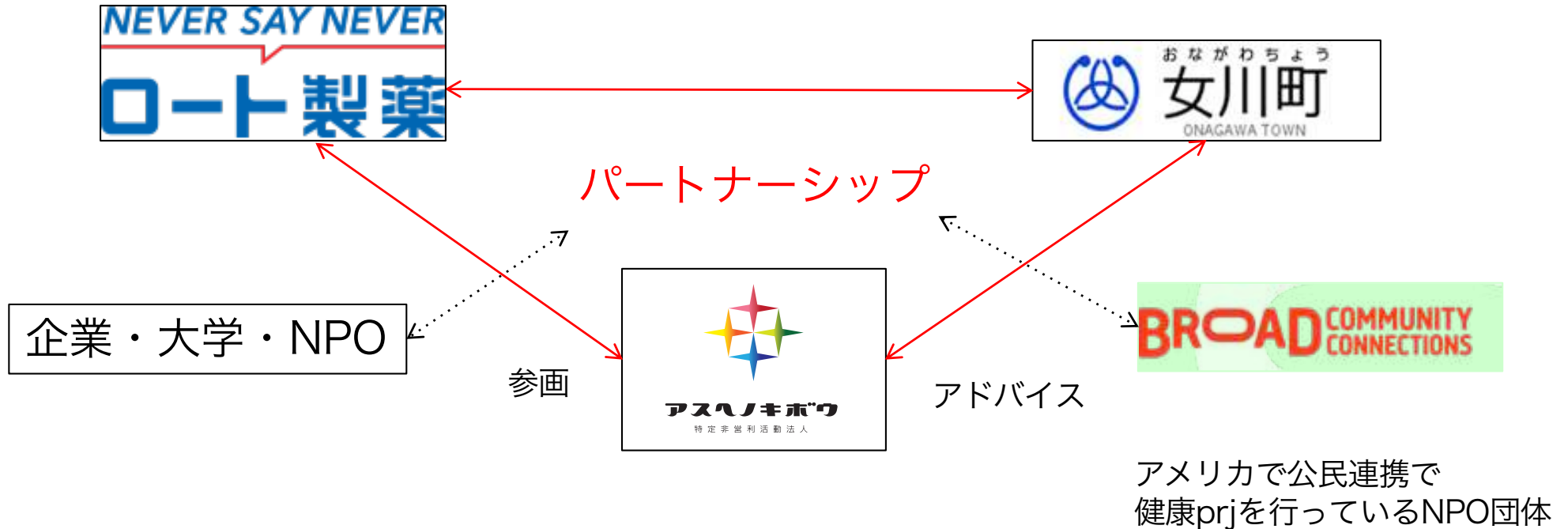
* 以下のURLからGoogle My Mapでルートを確認できます。

企業名/団体名	対象層	テーマ
ハーバード・ビジネス・スクール	当大学学生	東北の復興に学ぶリーダーのあり方。
JICA	ソマリア(大臣、行政官) ミャンマー(行政官) フィリピン(行政官) etc	災害の中長期の復興のあり方を学ぶ。 (公民連携のまちづくり、起業支援、産業支援)
東京大学	医学部学生	トライセクターアプローチによる予防医療。

その他

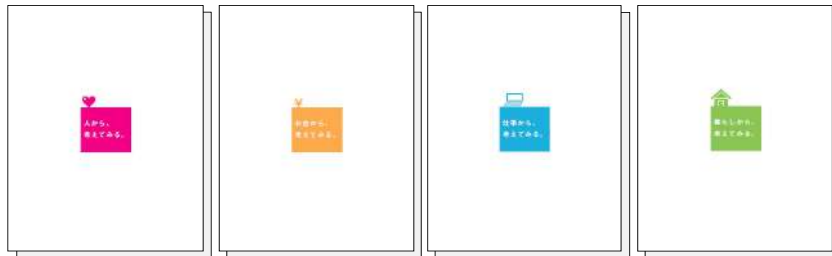
- ・自治体/議会 視察(年 15 回)
- ・災害被災地 関係者(年 4 回)

参考：企業との連携事例（女川町健康プロジェクト）



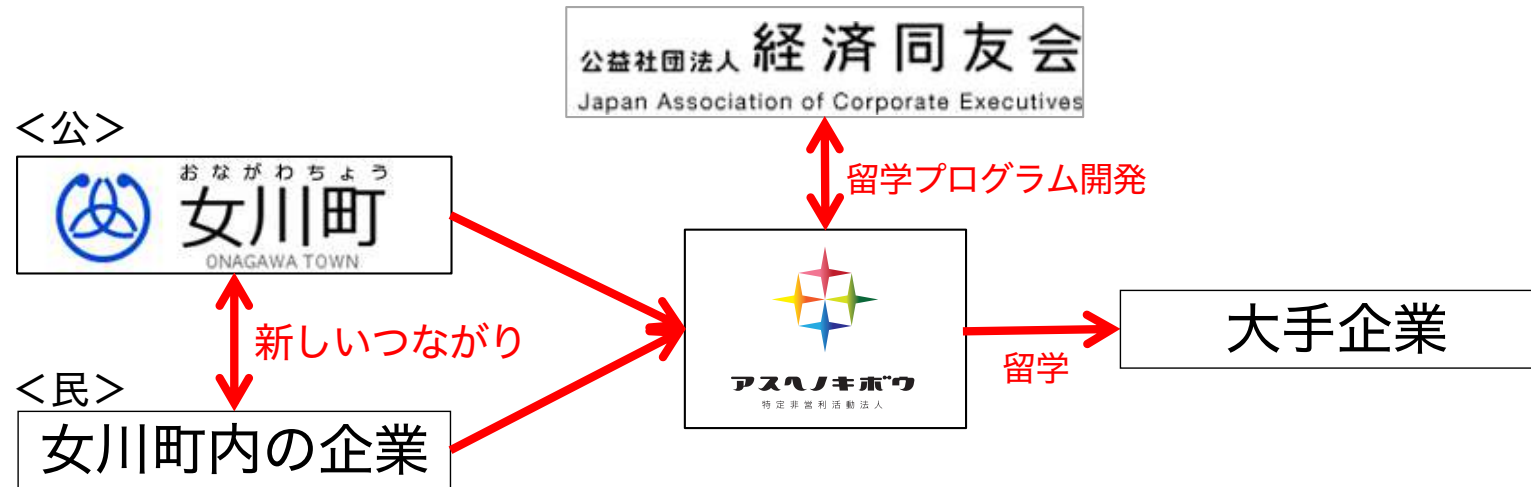
企業名/団体名	事業名	事業内容
ロート製薬(株)	女川町健康プロジェクト	女川町医療費を減らし、健康を通じて地域経済を動かすことを目的とした予防医療のプロジェクト。企業に対しての健康経営への導入や、働きざかりの世代への健康プログラムなど、30代～40代をメインターゲットに、糖尿病を中心とした生活習慣病のレベルを取り組みを実施中。2016年6月に女川町、ロート製薬(株)、アスヘノキボウの3社でパートナーシップを締結。

参考：企業との連携事例（データ事業）



企業名/団体名	事業名	事業内容
The Data Center (New Orleans)	データ事業	The Data Centerの協力のもと、地域の事業者・住人の課題感や不安をインデックスしたデータブックを作成を実施。データブックを活用し、地域の社会課題解決の事業を生み出すきっかけや議論を促す場を生むことを目的とした事業。上記の女川町健康プロジェクトのほか、水産加工会社が漁師組合をつくる取り組みを生み出した事例などが生まれている。

参考：企業との連携事例（人材留学）



企業名/団体名	事業名	事業内容
経済同友会(東京)	人材留学	女川町の地域の経営者または次世代リーダーが、経済同友会の会員である大企業に、1週間経営や人材育成について学べる研修プログラムを実施。2013年より継続して実施している。